



第26号

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

発行日
平成18年12月1日

◇ 目 次 ◇

- | | |
|----------------|------------------|
| P2 宮島の自然に親しむ | P6 海岸清掃大作戦 |
| P3 子どもパークレンジャー | P7 ハチクマの渡り観察会 |
| P4 入浜海岸の自然調査 | P8 鷹ノ巣公募観察会 |
| P5 入浜周辺の植物 | P9 紅葉谷公園の補修 編集後記 |



ミヤジマママコナ

宮島の名を持つ植物は本種のほかはミヤジマカエデ、ミヤジマシモツケ、ミヤジマシダの3種である。ミヤジマカエデ、ミヤジマシモツケ、ミヤジマシダにはなかなか、お目にかかれないと、ミヤジマママコナは秋になると乾燥した林縁部に、その可憐なピンクの花を咲かせる。

宮島のみならず対岸の廿日市の山にもあり、身近に観察できるので親しみのあ

る花である。

稀に白花もある。しかし名前の上では継子扱いされている。ミヤマママコナから別種として分離されたが、その後分離が取り消され、最近再び独立が認められるという複雑な経緯をたどっている。

(写真・文) 池下 宏

宮島の自然に親しむ 子どもパークレンジャー

自然観察（包ヶ浦の植物・磯の生物）
シカの生態学習・海岸のゴミ調べ

今年も子どもパークレンジャー（JPR）の体験学習が9月から10月にかけて3回、宮島で実施されました。参加JPRは17人。PVは特に1回目と2回目の講師として子ども達の指導にあたりました。

☆ゴミいらんけえ宣言 ☆ゴミの旅 in 宮島
☆シカの明日はどこにある



これは今年のJPRで子ども達が作ったチラシのキャッチコピーです。昨年同様カウンセラーは当初子ども達をまとめるのに苦労していました。PVも然りです。けれども回を重ねるごとにチームワークもでき、昨年と一味違うチラシが完成しました。こんな子どもの成長の様子を目の当たりにできることが、JPRの醍醐味でしょうか。

チラシ配りでは、初め恥ずかしくて声かけできなかつた子も慣れると自信を持って観光客に手渡せました。他のPVの方々に、一生懸命に配布する様子を見ていただけなかつたのが残念です。多くのスタッフに支えられるJPR活動は、我が子が小学生ならばぜひ参加させたい行事でした。

ところで、子どもはいろんなことに興味を持ち、

聞いていないようでしつかり記憶していく、時に鋭い質問を発するなど自然観察や講義をするなかで、はつとさせられることが何度もありました。



JPRプログラム

PVによる自然観察の解説

回	目標	日程	主な内容	講師	PV
1	再発見！ 宮島の姿	9/9(土)	宮島の自然観察(包が浦の植物・磯の生物調査)	PV(小方ペア・新川高光・前田(勲)舛田六重部)	小川・横路
		9/10(日)	ゴミ調査・海岸清掃	宇宙船地球号の会	
2	鹿のくらしを 大調査！	9/30(土)	宮島の自然と鹿の生態学習 問題点の洗い出し	大丸さん(安佐動物公園獣医師)／PV	小川・新川 野呂田・前田 横路・六重部
		10/1(日)	チラシ作成人養成講座	いくまさ鉄平さん	
3	ぼくらにでき ることはなん だろう？	10/21(土) 10/22(日)	グループ別チラシ作成 メッセージを伝える。(宮島口桟橋前でチラシ配り)	いくまさ鉄平さん	小川・末原 野呂田・

スタッフ 事務局（人間科学研究所）3名 環境省 高木保護官他2名 カウンセラー3名

ちなみに1日目の観察でクモの雄が雌に食べられる話が特に印象深かったようです。

参加PVは宮島の自然や歴史等をできるだけ解りやすく伝える努力工夫をしました。他の講師の方々も同じだと思います。子ども達はそれをがっちり受け止めてくれ、チラシに表現した何倍ものことを学んでいることが夕食後の「ふりかえり」で解りました。解散前には学んだことをこれから的生活でどう生かすか話す時間がありました。

人間の排出する「ゴミ」が、海や山の生き物の生活を脅かしている様子を目にしたためか、ゴミに関することが多かったようです。

作成したチラシは詰所にも置いてあるのでぜひご覧ください。また環境省のホームページにも掲載予定とのことです。（小川 加代）

子ども達が作ったチラシ



包ヶ浦で植物観察指導



宮島口桟橋前でチラシを配るJPR

[環境省のホームページ](http://chushikoku.env.go.jp/nature/mat/m_4_1/index.html)

宮島地区PVの会 年間活動計画・「みせん」の
バックナンバーが公開されています

http://chushikoku.env.go.jp/nature/mat/m_4_1/index.html



PV応募者研修会

環境省が9月に募集した新規PVに19名（内女子6名）の応募があり、応募者は来年4月の正式登録まで5回の養成研修活動に参加することになっています。

第1回は10月14日（土）午前の紅葉谷補修のあと午後から宮島支所会議室で講義研修会が行われました。

研修会では岡山事務所の佐々木課長と高木自然保護官が環境行政、瀬戸内海国立公園、レンジャー、パークボランティアの役割りなど、PV各部会長からPVの会の活動状況についての説明がありました。

このあと10/29の公募観察会（実施済）に続き12/2研修会「応急手当の方法」12/9弥山登山道の補修、清掃 3/25公募観察会の予定が組まれています。

第2回 入浜の自然調査

新川 博

日 時 11月5日(日) 9:00~16:00

参加者 小方ペア 島 新川 中道 野呂田 弁田 村上 柳瀬 矢吹 横路 (11名)

〔調査グループ〕

①水質調査 中道 野呂田 弁田 村上 柳瀬 横路

②植物調査 小方ペア 島 新川 矢吹

※ 末原さん達測量グループの入浜周辺地図が完成したので、この日の調査結果を、地図上に記入することになりました。

{水質調査の結果}

地点	2006/11/05調査測定				2006/05/14調査測定			
	水温 (°C)	pH	COD	塩分濃度 (%)	水温 (°C)	pH	COD	塩分濃度 (%)
A	15.8	7	7	0.01	20.1	6	7	測定ナシ
B	15.6	7	8+	0.01	16.6	6	4	測定ナシ
C	18.8	6	8+	0	14.3	6	試薬ナシ	測定ナシ
C'	14.4	5.5	8+	0				
D	15.9	5.5	8+	0	18.8	5.5	7	測定ナシ
E	16.9	7	8+	0.01	18.8	5.5	7	測定ナシ
F	17.5	試薬ナシ	8	測定ナシ	18.1	5	5	測定ナシ
海水	22.3		3	2.4				測定ナシ

備考 * CODの測定結果に+印がついているのは、試薬の測定範囲を超えていたため測定値は8以上を示す。(再度測定の要あり)
* 11月は入浜池の水量が減少していたため、5月の測定点に水がなかつたため、水のあるところまで内側に移動して測定した。

- 池の水量の減少は、降雨不足のため致し方がないが、以前は汽水池であったと考えられる入浜池が、現在では完全に真水になっている。この理由は度重なる台風による砂の移動で、池の入り江?が埋まったためと考えられる。
- この池を以前のように汽水池に戻すための作業(工事?)を計画して実施するよう提案したい。
- 次回には再度水質調査を実施し、併せて水生動物の調査を加える予定である。



入浜池の水質調査

{植物調查}

- 植物の主なものは、地図上に記入したが、まだ調査漏れの植物があるものと思われるので、次回（最終回2月25日）には、さらに調査を深めたい。
- 今回の調査結果では、シダ植物2種、单子葉植物2種、双子葉植物38種、裸子植物2種を記入したが、これらの中にはかなりの数の栽培、園芸種が混入している。地図上にもあるように、以前は人家があり（詳細については調査の必要がある）生活の跡も見られるためと推測している。

★入浜と入浜池周辺の生物調査（第2回中間報告）2006/11/05



★入浜周辺で見られる植物（○印は栽培種と考えられる）

コシダ オニカナワラビ ヒトモトスキ
○カナリーヤシ ナガバヤブマオ ○イロハ
モミジ ウリハダカエデ ○トウカエデ
○カキノキ ベニバナボロギク クスノキ
イヌガシ シロダモ クサギ ハマゴウ
クマヤナギ ウラシマソウ レモンエゴマ
スイカズラ ハマニンドウ ハスノハカズラ
サカキ ○サザンカ ヤブツバキ ヒサカキ
アカメガシワ カンコノキ エノキ クロキ
ミミズバイ ホウロクイチゴ ノイバラ
ヤマイバラ アラカシ ウラジロガシ ジャ
ケツイバラ ○カラタチ ネズミモチ ○マ
カエデドコロ ヤマモモ アカマツ クロマ



鷹ノ巣砲台跡から見た入浜

海岸清掃大作戦

腰細浦・入浜

宮島南部に位置する腰細浦・入浜は近年の度重なる台風被害により大量の流木、発泡スチロール、かき筏の残骸等が散乱して無残な状態となっていましたが、10月7日、広島県産業廃棄物協会が主導して多数の重機を大型船で運び、7団体160人のボランティアによる清掃大作戦が実施されました。PVの会でも全面的に協力することとなり会員16名が参加し、入浜の漂着ゴミ除去、搬出、清掃をしました。

日 時 10月7日（土） 9:00～15:30

参加者 足立 池下 井上 近藤 佐藤

末原 坪井 中道 中本 野呂田 平山
丸平 宮崎 村上 柳瀬 横路

当日参加したボランティア団体は宮島PVの他にMMMの会、広島国際学院大学、廿日市市職員、宮島支所職員、広島県環境部の職員など総計160人。宮島桟橋から現地までは7台の車でピストン輸送が行われました。

一方大型船(1500t)は重機類、大型トラック5台、4t車など5台を積み腰細浦海岸の砂浜に接岸しました。これだけの重機類を使い、多数のボランティアの人海戦術とあいまって、今まで除去不可能だった大型、大量のゴミを片付けることが出来ました。

PVは入浜を受け持ち16名で作業しましたが大きな発泡スチロールやかき筏の残骸が大量に残っており、除去したものを宮島支所の2tトラックで腰細まで8往復するほどでした。



船から陸揚げした重機類



入浜から搬出したゴミの山



参加したPVの皆さん

腰細浦砂浜に集めたゴミは人力リレーで船積みされました。しかし、実際に手際よく、瞬く間に大量のゴミの山がなくなりました。この日収集したゴミは100m³ 80tにもなったそうです。

今回の作業で入浜の景観は見違えるほど良くなりましたが、また台風などで汚れることのないことを祈るのみです。

（ 柳瀬 佳史 ）

ハチクマが飛んだ!

弥山で渡りの観察会

日 時 9月 23日 (祝) 9:00~15:00

参加者 足立 近藤 佐渡 末原 高光

坪井 中道 野呂田 弁田 村上 矢吹
高木自然保護官

雲一つない絶好の「タカの渡り」日和だと期待して詰所に集まる、つわもの十数名。先発隊として担当幹事の小川、近藤さん、女性陣が大きな荷物を持って 9 時前にスタート。後発は 9 時過ぎにのんびりと出発、紅葉谷コースを歩いて登るつもりがロープウエイの利用となり、ラッキーでした。

予定より早く 10:40 に弥山に到着、展望台でスタンバイ。近藤さんの“ハチクマ”的話を聞きながら待つこと 30 分、11:40 分、待望の“ハチクマ”が 4 羽、近くまでやってきました。

タカの渡りというと上空を大群が早いスピ



頂上展望台での参加者

ードで飛翔するのを想像していましたが、“ハチクマ”は展望台の近くをスマートに飛んでくれました。合計 6 羽をウォッチングしましたが雌雄幼鳥の識別など出来ませんでした。

幸い天候に恵まれ、ハチクマの勇姿をはつきりと見ることが出来、自然に感謝の一日でした。
(佐渡 正幸)

酷暑の観察会 大川浦

日 時 8月 26日 8:30~16:00

ルート 広大植物実験所～大川浦～大川越え
登山道～大川浦～大江浦～室浜～宮島桟橋

参加者 池下 小方ペア 小川 近藤 島
高光 中道 名越 野呂田 前田 (勲)
弁田 村上 六重部 高木自然保護官

今日は朝から好天、暑い一日が始まった。参加者は 15 人。シロバイの花を見るのが目的だ。途中、コバンモチ、クロバイ、タイミニンタチバナ、ユズリハ、タマミズキ、シキミ、ネジキの実を見る。カンコノキは花、そして果実、果実がはじけて中の赤い実まで見ることが出来た。

そして大川浦から岩船岳への道に入ってしまふと、しばらく歩いたところで、きれいに咲いた花を見る。これぞ待望のシロバイだと叫んだが残念ながら、これはカンザブロウの花だった。

ここらあたりからシロバイの木はたくさんあったが少し早いようで、つぼみだった。つぼみのまわりには去年の青い実がたくさんついていた。どこまで歩いても咲いたシロバイを見ることは出来なかった。残念!!

(小方 為子)

ダライラマと朝青龍!

11/4 宮島の大聖院でダライラマ法王の講演を聞いている時に突如横綱朝青龍が現れ、夢中でシャッターを切りました。九州場所で博多にいる横綱がお忍びでダライラマに会いにきたものと思われます。

報道関係者も知らなかったようで、この写真は 11/14 付中国新聞の **写ッター** (読者の投稿写真欄) に歴史的ショットとして掲載されました。
(岩崎 義一)



鷹ノ巣の自然と歴史 公募観察会

日 時 10月 29日 9:00～15:30
 参加者 足立 池下 井上 小方ペア 小川
 島 新川 末原 中道 野呂田 平山
 弁田 丸平 村上 森川 六重部
 高木自然保護官 研修参加 12名
 一般公募参加者 24名



包ヶ浦に集まった参加者

快適な秋晴れの続く中、2回目の鷹ノ巣山公募観察会が実施されました。

今回は行楽シーズン中でもあり一般公募参加者が24名と思ったより少なかったようです。PV研修中の12名も加わり定刻9:30のスタートとなりました。

植物の観察はもちろん道のまん中で狸の糞に出会ったり、鳥の巣を見つけたり、又六重部さんの「2分間目を閉じて」という五感をフルに活用しての観察会に皆さん楽しそうにしていました。

11時過ぎには全員広場に到着し、小休憩。その後中道さんの、いつもの軽妙な語り口で砲台跡の説明を聞き、見学した後、見晴らしのよい、頂上で昼食となりました。

砲台跡へは清掃もかねて何度も足を運んでいますが、最近徐々に存在感を増しているように感じます。明治の時代を一生懸命に生きた人々を思うと何か熱いものを感じるのですが、頂上に立って瀬戸の穏やかな風景を目にするとといっ�んに心が和んできます。

午後からは春に清掃、整備した東側の司令室跡を見学し、車道を歩いて帰りました。途中トキワガキをかじってみたり、サカキカズ

ラの種を飛ばしたり、又広島県絶滅危惧種のシバナの観察、道端に咲いていたミヤジママコナも色を添えてくれました。

午後3時には予定通り全員無事に包ヶ浦に到着、天気にも恵まれ、充実した観察会となりました。 (平山 美知子)

「JICA」の研修生来島

今年もJICAの研修生12名が宮島へやってきました。JICAでは「地域観光開発と観光振興」セミナーを毎年催し、観光担当行政官の研修を受け入れています。

同セミナーは9月から約2ヶ月東広島市の(財)ひろしま国際センターを拠点として討議形式の座学と全国観光地を訪問して行う実地調査等の実習とで構成されています。

PVの会としては10/27(金)の来島時に「国立公園における自然保護ボランティアの



JICAの研修生一行

役割と活動について」特に観光地における自然保護の実例(その楽しさと難しさ)について紹介しました。

紅葉谷公園では散策しながら1945年の枕崎台風で壊滅的打撃を受けた、この公園を「禍を転じて福となす」べく関係者が力を合わせて以前よりも、すばらしい公園に復旧したことなどを話しました。

彼(女)等が帰国後、宮島で学んだことを生かしながら、若き行政官として、国おこしに活躍されることを期待しています。

(村上 光春)

紅葉谷公園の補修、清掃 研修生が14名参加

日 時 10月14日（土）9:00~12:00

参加者 足立 岩崎 佐藤 末原 坪井
中道 中本 西 平山 丸平 宮崎
村上 森 柳瀬 矢吹 横山 横路
高木自然保護官 研修参加 14名

秋の紅葉シーズンを前にして紅葉谷公園の補修、清掃作業を実施しました。今回は新規PV応募者のうち14名が研修活動として参加し、特に側溝の土砂除去、道路面の凹凸ならし作業を行いました。



樹木名板パトロール

日 時 9月2日（土）9:00~12:00

参加者

足立 池下 佐藤 末原 中本 野呂田
平山 村上 森 森川 柳瀬 矢吹

3年前、平成15年に取り付けた島内散策道（ウグイス・アセビ）の樹木名板のパトロールを2班に分かれて実施し、破損、散逸名板の補充、補修、再取付けを行いました。



◇ 編集後記 ◇

▼10月7日に行われた腰細浦、入浜海岸の清掃作業は動員したボランティア160人、重機や大型トラックなど海路、大型船で運び陸揚げするなど画期的で計画に2年かけたとのことだが、今まで地道にボランティア活動で作業していた状況からみると瞬く間に片付けていく機動力の威力に感動しました。こういう機運が広く高まっていけば、美しい海岸の代名詞「白砂青松」が蘇るのも夢ではなくなったように思われます。（足立）

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局 環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所

（〒730-0012）

広島市中区上八丁堀6番30号

広島合同庁舎2号館6階

TEL(082)223-7450・FAX(082)223-7451

宮島詰所

（〒739-0505）廿日市市宮島町1862-18

（宮島桟橋2F）